



みしま

No. 203

令和6年2月発行

# 議会だより

## 12月定例会

- 12月定例会のあらまし …… P 2
- 一般質問～議員が町政をただす～… P 4
- 三島町次世代の議会  
～私たちの未来の三島町のために～… P 9
- 議会の主な動き …… P14



# 12月定例会のあらまし

12月定例会は7・8日の2日間開催され、専決処分承認1件、条例制定2件、条例一部改正3件を可決しました。

予算は令和5年度一般会計補正予算及び4つの特別会計補正予算など、町長より提出された議案を審議し、すべて原案通り可決しました。

併せて、議員提出議案として「すべての医療・介護従事者の処遇改善と人員増を求める意見書」を可決し、意見書を国関係機関へ提出しました。

## 【可決結果一覧と条例改正等の主な概要】

議案番号	議案名等	結果
60	専決処分承認を求めるについて（令和5年度三島町一般会計補正予算） ・高齢者生活福祉センターひだまりへの温泉送湯管並びに女子浴槽排水設備が老朽化により漏水し、早急に復旧が必要なことから補正予算を専決処分。	承認
61	三島町簡易水道事業の設置等に関する条例 ・地方公営企業法の適用を受けるための条例制定（設置及び経営の基本に関する事項を規定）。	可決
62	三島町下水道事業の設置等に関する条例 ・地方公営企業法の適用を受けるための条例制定（設置及び経営の基本に関する事項を規定）。	可決
63	三島町国民健康保険税条例の一部を改正する条例 ・地方税法及び地方税法施行令の一部改正に伴うもので産前産後期間に係る被保険者の国民健康保険税の所得割額及び均等割額を出産月の前1か月から出産月の後2か月までの4か月間（多胎妊娠の場合6か月間）減額措置を設ける改正。	可決
64	令和5年度三島町一般会計補正予算	可決
65	令和5年度三島町国民健康保険特別会計補正予算	可決
66	令和5年度三島町介護保険特別会計補正予算	可決
67	職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 ・県人事委員会勧告に基づき、給料月額を引き上げ、一般職員の期末・勤勉手当を0.05月、定年前再任用短時間勤務職員及び会計年度任用職員の期末手当を0.025月、定年前再任用短時間勤務職員の勤勉手当は0.025月引き上げる。また、会計年度任用職員の勤勉手当を令和6年度から支給の対象とする改正。	可決

議案番号	議 案 名 等	結果
68	三島町会計年度任用職員の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例 ・令和6年度から支給する会計年度任用職員の給与に勤勉手当を加える必要の改正。	可決
69	令和5年度三島町一般会計補正予算	可決
70	令和5年度三島町国民健康保険特別会計補正予算	可決
71	令和5年度三島町簡易水道事業特別会計補正予算	可決
72	令和5年度三島町介護保険特別会計補正予算	可決
73	令和5年度三島町後期高齢者医療特別会計補正予算	可決
議3	すべての医療・介護従事者の処遇改善と人員増を求める意見書	可決

## 【令和5年度12月補正予算の額】

(単位：千円)

会計区分	補正前予算	補正額	補正後予算
一 般 会 計	3,180,500	43,500	3,224,000
国民健康保険特別会計	187,022	1,186	188,208
簡易水道事業特別会計	269,294	221	269,515
介護保険特別会計	485,527	4,602	490,129
後期高齢者医療特別会計	35,848	159	36,007

## 【12月定例会の補正予算の主な内容】

### ■暮らし関係■

- 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業
  - ・低所得世帯支援枠（低所得世帯7万円支給） 16,100千円
  - ・推奨事業メニュー（65歳以上の高齢者に1万円給付、18歳以下の子育て世帯に子供1人つき3万円給付） 11,000千円
- 戸籍システム改修 3,520千円
- 除雪用ホイルローダーリース 1,031千円

### ■経済関係■

- ふるさと荘脱衣所床、つるの湯エレベーター修繕 1,265千円

# 一般質問

## ～議員が町政をたずね～

12月定例会では3人の議員が一般質問を行い、町政全般について活発な議論を交わしました。(5頁～8頁に掲載)

一般質問議員		質問事項	頁
1	3番 五十嵐 健二	①三島町のめざすゼロカーボンについて	5
2	8番 大竹 克昌	①有害鳥獣対策について ②今後の人材不足について	6
3	7番 菅家 三吉	①三島町の農業について	7

※一般質問とは…議員が町の将来に対する方針や、執行機関の政治姿勢を明らかにし疑問点等を質します。また、議員自ら政策の提言を行います。三島町議会は1人60分の持ち時間の間に質問答弁を行います。



# 三島町のめざすゼロカーボンについて



五十嵐健二 議員

必要となる計画であり、県内でも先行した策定だと認識している。

新規事業ではないが、

2022年に町が取り組んできた再生エネルギーの地産地消と地域

内経済環境のための木質バイオマス整備導入に向けた協議と調査を

町内関係機関とともに進めたほか、小水力発電

可能地調査を行うなど化石燃料を伴わない

エネルギー活用によるゼロカーボンを目指していく。

森林整備事業では、

民有林の約30%を整備することにより年間約

6千300トンの二酸化炭素の吸収量が見込まれ

ると考え、地区要望による森林整備を進めて

いきたい。

また太陽光発電設備補助金の創設や、ごみの減量等、町民一人一

人の取り組みが重要となる。

## 再質問

**問** 取り組みに関して具体的な町の進め

方は。

**答** 地域政策課長 再生可能エネルギーを

活用した施設設備、熱の供給や電気の供給

などの部分をバイオマス、太陽光発電などの

施設で脱炭素に取り組んでいく。吸収に関しては、森林整備を進める

ことが先決と考える。

収入を得られるような政策が必要ではないか。

**答** 特命担当課長 町の民有林の約30%

である2千ヘクタールを整備するとすると非

常に高い目標値となる。町の森林整備は昨年来

で森林組合の見積り合わせて発注していたが、

今後は町内の林業事業体を含めた形で進める

など、所有者に還元できる仕組みづくりや町

単独補助事業で町内の林業事業体に仕事を

出す形で進めていく。

**問** 今後計画的な植林は考えているのか。

**答** 特命担当課長 町

で植栽となれば、所有者や地区と協議が

必要となり、その方たちの同意がなしには伐

採して植栽することはできない。詳細についてはこれから詰めてい

く。

**問** 会津の森林率は県内でも上位である

が、製材品生産量が非常に少ない。付加価値

を上げるためにも、製材品の生産量を増やし

ていく必要があると考えるがいかがか。

**答** 特命担当課長 森

林組合関係が経営している会津共販市場

に出しているが、ほとんどが合材関係であり、

流通も非常に少ない。

**問** 町がゼロカーボンを進めていくうえで何が必要なのかと考

えたとき、費用にどのくらいかかるのか、多

額の出費が伴う場合は断念し、代用を検討す

るなど、本当に必要なことは何なのかを考

えることが大事だと思うがいかがか。

**答** 地域政策課長 木

質バイオマスの再生可能エネルギーにつ

いては、諦めたわけではなく森林整備と併せて取り組んでいく。

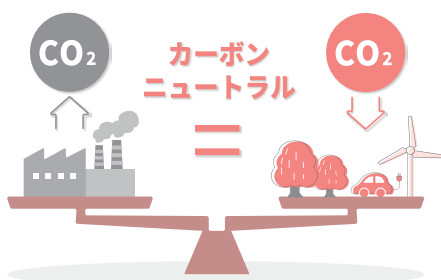
**意見** 事業としては長期にわたる計画である。一番心配なことは

計画を作ることが目的ではなく、計画はあく

までも実現のための手段であるはずなので、

この計画を上げた以上は、その計画に向かっ

て何らかの形で結果を出していくべきだと考



# 有害鳥獣対策について 今後の人材不足について



大竹 克昌 議員

## 1 有害鳥獣対策について

**問** 令和5年春より国及び県から熊の出没が増えるとの注意喚起された。町でも、有害鳥獣捕獲体制の整備など万全の準備をしていると思うが、有害鳥獣に関する住民の要望に処してきたのか伺う。

**答** 町長 今年度は熊及びイノシシの出没が頻発し、熊は12月6日現在33頭、イノシシは10月末で14頭を捕獲した。出没の情報を受けた際は、猟友会とともに現地に行き、足

跡や通り道を確認し、有効な場所にわなを設置し、捕獲に努めた。

現在保有している熊わな数が15基のため、今年のように各地で出没が多発すると、すぐに設置できない事態となる。しかし人的被害の防止を第一に、人家近くを優先的に設置し、また農作物の被害軽減に努めた。来年度以降も住民の要望に迅速に対応するため、わなの設置や各種有害鳥獣対策を町と猟友会が緊密に連携して、被害の防止に努めていく。

**再質問** かなりの頭数を捕獲したが、山に住む熊やイノシシが減ったという認識を町はもったか。

**答** かなりの頭数を捕獲したが、山に住む熊やイノシシが減ったという認識を町はもったか。



有害鳥獣対策のわな（上）、電気柵（下）

**答** 産業建設課長 一時的な個体数の減少はあるかもしれないがまだ多いと考えている。

**問** 電気柵は熊に有効か。

**答** 産業建設課長 触った場合は嫌がり、逃げることを確認している。

**問** 農地だけではなく電気柵で家を囲む

対策をしてはどうか。

**答** 産業建設課長 現在は田畑、農地を対象としている。

**問** 猟友会の会員数、年齢層を伺う。

**答** 産業建設課長 14名在籍しており、70歳以上、60代以下それぞれ7名ずつである。なお今回新しく採用された地域おこし協力隊員は40代である。

**問** 今後、猟友会の会員数が減少することか考えられる。町の対応策は。

**答** 産業建設課長 狩猟免許の取得や更新の補助を実施している。今年度も60代の方1名が取得して猟友会に加盟した。また今年、わな免許を取得した職員もあり、役場職員が狩猟免許を取得することも対応策の一つと考え、様々な

方法で体制を整えていきたい。

**問** 町民が安全で安心して生活ができるよう予算付けを含め、対策にあたっていただきたい。

**答** 産業建設課長 各種補助を始め、電気柵等の予算をしっかりと確保していきたい。

## 2 今後の人材不足について

**問**

少子高齢化による人口減少に伴い三島町の各企業においても人材不足に悩まされている。そのため役場職員、または町政に関わる職務の人材についても、近い将来悩まされるのではないかと推察される。今後の人材不足についてどのようになっているのか伺う。

**答**

町長 役場職員の採用については、

応募者が少ない状況が続いており、職員確保についても大変危惧している。受験者確保の取組として、福島県の町村職員確保に向けた支援事業に参加し、採用情報サイトへの登録やオンライン役場見学ツアー、県内町村合同説明会などを実施しPRを図っている。

また、町内事業所でも人員確保に苦慮している状況も見られ、地域の福祉や産業を担う人材を将来にわたって

確保するため官民が連携した取組が必要と考える。

人口減少社会の中の働き方改革として、デジタル化が叫ばれており、三島町DX推進計画を着実に進め、自治体職員の事務負担の軽減と地域社会のデジタル化に取り組み、人材確保の強化と併せ、安心して暮らせる町づくりを進めていく。

## 再質問

**問** 現在、役場職員の町外定住者は何名か。

**答** 総務課長 おおよそ15名程度で、割合として約3分の1である。

**問** 数年後、町外職員のみになる恐れがあるが、支障をきたすことはないのか。

**答** 総務課長 大規模災害等が発生した場合、道路が寸断され集まることができない

ことが考えられる。町民の生活を守っていくうえで非常に難しい状況になる。

**問** 長年、役場に勤務されていた方が退職される事例が見受けられる。これも人材不足に繋がっていると考えるか。

**答** 町長 知識や経験を持っていて職員が退職されることは役場にとって痛手である。しかし、本人の職業選択自由から致し方のない。

いことと考えている。今後も職員の働きやすい環境づくりを目指し、組織の充実を図りたい。

**意見** 町職員は大変な業務というイメージができていてののではないかと。夢と希望のある職業と思われるようなPR活動等しっかりとした対策を取ってもらいたい。

## 三島町の農業について



菅家 三吉 議員

**問** 全国的に高齢化に伴う農業離れが加速度的に進み、深刻な

問題となっている。当町においても高齢化による離農、遊休農地の増加など見過ごせない状況にあるが、その反面、昭和村のカスミノウ栽培のように新規就農者を増やしている事例もある。今後の農業

について当町はどのようになっているのか伺う。

世代別就農者数は。

**答** 町長 20代ゼロ、30代2人、40代ゼロ、50代1人、60代9人、70代20人、80代6人、計38人となっております。

り、高齢化がはつきりと伺える。

**問** 町の農地に占める耕作放棄地の割合は。

**答** 町長 耕地面積146ヘクタール、畑76ヘクタール、のうち耕作放棄地は72・5ヘクタールで、半数近くが放棄されている。

**問** 新規就農者への支援、そのほかの取組について町の施策は。

**答** 町長 就農時の年齢が原則50歳未満の認定新規就農者の方で農地中間管理機構として農地を借受ける等の一定の条件を満たした方を対象に1年目から3年目が150万円、4

年目から5年目が120万円交付される県の「農業次世代人材投資事業補助金」があり、現在2名の方がカスミノウを栽培して、この補助金を受けている。町でも農業の担い手を育成するために「農業用機械・資材」、「薬剤・肥料」等を購入する「農

料」等を購入する「農

業者支援育成事業補助金」があり、新規就農者2名の方も利用している。その他、農業就業とともに、定期的な指導助言を行っている。

**問** 新たな作付品目などはあるのか。

**答** 町長 具体的なものはないが、現在も遊休農地を活用して作付しているソバやエゴマを中心に、比較的手間がかからず収穫できる作物を継続したい。また、適時適作の考えを基に、三島町の気候風土に合った、そして高齢者や新たに農業に取り組もうとする方が取り組みやすい作物を研究したい。

**問** 私は会津地域の議員で構成している会津農業振興議員連盟に所属しているが、自治体間で農業について連携している協議会等

はあるのか。

**答** 町長 個別の情報交換と農業普及所が開催する研修会や情報交換、公開等があり、そのような場を通して就農者の支援対策や収量が上がる栽培方法などを研修し、農業者に伝えている。

**問** 町は10年後の農業従事者をどの程度と想定しているか。

**答** 町長 現在就農している38人という数字は難しいかもしれないが、農地を集約し、機械化、効率化を図り、少ない労働力でも農地を維持できるように、毎年農業者と情報交換を行いながら、早めの対策が講じられるように努める。

伺う。

**答** 産業建設課長 令和5年度の速報値で11月下旬までの出荷額は約6億5千万円で、そのうち三島町の出荷額は6件の農家で約2千800万円である。

大変なこととしてはハウス等の確保による初期投資での資金面の問題、栽培面では、春から秋にかけての早朝の作業や出荷期の夜間の作業が上げられる。しかし、組合を通して販売ルートが確保できれば、約1千万円の収

入が得られると聞いている。

**問** 遊休農地活用にあたり、人材不足の話もあったが、仲間同士のグループを作り、共同で作物を作る仕組みがあれば遊休農地解消につながると思うかどうか。

**答** 産業建設課長 町内の遊休農地の全てを解消することは困難だが、住宅近辺のある農地を有効活用することは大切である。遊休農地の解消が鳥獣対



三島町でも一大産業となったカスミソウ栽培

策にもつながることもあるので、グループでの活動は非常に有効な対策だと思われる。町でも若者交流活動や健康づくり活動に取り組んでおり、これらの事業と連携して行えば、十分可能性があると思うので、今後検討したい。

**問** 町は、新しい作物の作付けを検討する時期にきている。難易度が低く、初心者でも簡単に収穫できる「落花生」はどうか。

**答** 産業建設課長 落花生は、降水量が少なくても収量が高くなる作物だと聞いている。グループでの栽培ということを考えた場合、取り組みやすい作物だと思ふ。

**問** 10年後、20年後先を見据え、もう少し農業に重きを置いた

全体的な政策を執っていたきたい。そのためには農業従事者が20年後、今よりも増加していることを目指した政策を取組む必要があるのではないか。

**答** 町長 「食と農業」、結び付ける事業展開を図る必要がある。まずは、住宅の近くから気軽にできる農業や移住者の方々も一緒に参加できる農業の基盤づくりを行い、農業の振興を図っていききたい。

**意見** 今世界情勢は混沌とし、目まぐるしく時代の変化を感じている中で、地元で農地があつてよかったと思えるように、現況をしつかりと捉えて、今できることから少しずつ町の農業を活性化させることを望む。

**再質問** カスミソウ栽培を行う中で、大変なことや年間の売上高を

令和5年11月29日、今年で5回目となる「三島町次世代の議会」が開催されました。今年には三島中学校3年生のほか三島小学校6年生が参加しました。

総合学習で町づくりに対して学んできたことを活かし、小学生、中学生の視点で考えた三島町の町づくりに関することをグループでまとめ、今回は代表の4名の生徒が議員として町づくりに対する質問・提言を行いました。

実際の議会と変わらぬ緊張感の中、町当局と将来の三島町について真剣な議論を行いました。



議長  
二瓶剣士郎さん



次世代の議会議員

# 三島町 次世代の議会

～私たちの未来の三島町のために～

**問** 現在、三島町の人口は年々減少し、三島中学校は全校生14名という小規模校になっている。この人数では、学校でいたいこと、できることが限られる。そのため、何とかこの人口減少に歯止めをかけないといけないと思う。

また、各地区で空き家がたくさんあり、問題になっている。人が住まなくなると家は荒れてしまう。そこで、この空き家を改築して三島町に移住してくださる方を募集してはどうか。都市部での生活に疲れ、田舎暮らしを希望する人が増えていると聞く。家屋だけではなく、田んぼや畑をセットにして貸し出すのはどうか。うまくPRできれば移住を希望する方ができると思うが。



1番 小柴美優 議員

人口減少について

**答** 町長 人口減少は大きな問題で、これに歯止めをかけるのは難しいことであるが、町ではこの人口減少が一気に進んでいかなないようにするため様々な取り組みをしている。

これまでに若い方や子育て世帯の方々に住んでいただけの住宅を建て、移住されてきた方や町の子育て世代の方々へ提供している。

また、三島町に移住を予定し、空き家を住む場所とする方には、住宅を直すためのお金を応援する制度を作り、昨年から三島町に直接来ていただく「移住体験ツアー」も開催した。参加された方の中には空き家を直して移住された方もおり、人口減少への対応と合わせて空き家解消にも繋がった。

町が空き家を改修し貸出す取組みについても現在進めており、空き家を募集している。しかし、応募いただいている住宅は大変大きく、町が希望している小さな住宅ではないが、今後も継続して募集を進めていく。

また水田や畑をセットにして貸

出す取組も進めており、空き家の貸出について相談される際に「農地も何とかしたい」という方もおられるので、その情報をお知らせして、住んでみたい方とのマッチングができるような取り組みを進めていく。

**再質問**

**問** 三島町には、すばらしい自然や施設がたくさんある。今あるものの魅力を発信し、住みたくなる目玉をつくっていくことも必要になると思う。その魅力の発信については、どのように考えているか。

**答** **地域政策課長** 三島町の魅力は伝統工芸やサイノカミなどの伝統文化であり、それを大切に守っていることがあげられる。サイノカミについてはイベントを開催し、多くの方に直接来ていただき、SNSやインスタグラム等に載せていただくなどして三島町の情報発信に繋がるようにしていきたい。

三島の教育について



2番 鈴木 璃音 議員

**問** 三島中学校では、10月4日に福島県庁より職員の方を派遣していただき、第7次福島県総合計画の出前講座が開催され、令和4年度から12年度まで、今後9年間を見据えた総合計画の施策を伺った。

その中で、総合教育計画において、施策6「安心して学べる環境を整備する」が掲げられており、子どもたちがどの地域の学校でも安心して学ぶことができるよう、少人数教育の充実、施設設備でも整備に取り組みますという方向性が示されている。  
三島町では、この施策6について、どのような取組を考えているのか伺う。

**答** **教育長** 町にも県と同じように振興計画があり、それに基づいて、教育委員会では町の教育振興計画を作り、取り組んでいる。その基本テーマとして、「ふるさとと自分に誇りが持てる人づくり」を掲げ、「少子化に対応した活力ある学校づくり」を目指し少人数のいいところを最大限に生かし、課題となる点については、タブレットの活用などを図って教育環境の整備に努めている。

小中学校では総合学習でふるさとである三島町を学び、町の課題や解決策を考え、自分たちができることや自分自身の将来を考えることができる人づくりに力を入れている。

「安心して学べる環境を整備する」ための町の取組については、少人数教育を充実として、複式学級になった場合には、2つの学年で担任の先生が1人となってしまふところを、町が独自に先生を配置することで、全学年に1人の担任の先生がいる学習環境を整えている。



左：6番 鈴木 希 議員  
右：7番 二瓶 悠 議員

さらに、独自に小中学校にそれぞれ支援員の先生を置くことで、小規模校ならではのきめ細かな学習指導を行っている。

また、小中学校のWi-Fi環境を整備して、全児童生徒にもタブレットを配付し、三島町に住んでいても全国や世界の皆さんとつながって、交流学习などができる環境の整備を整えるなど、タブレットを家庭に持ち帰っても家庭学習に役立てたり、また修学旅行や校外学習でも使えるように、モバイルWi-Fiも配布している。  
英語教育については、ALTの先生と一緒に勉強したり、ブリテイツシユヒルズでの英語体験研修、中学校の修学旅行では、平和学習のために旅行代金の補助や、保育

所から中学校までの給食費の無償化、保育料の全額補助などを行っている。今後もう少し取組を継続して、児童生徒一人一人のよさを認め、伸ばし、つまずきを支援しながら、一人一人を生かす少人数教育の充実にさらに取り組んでいく。

施設設備については、校舎や体育館など建物と設備の定期的な点検を行い、必要な場合には修繕をしている。また暖房機やエアコンのバネの交換については一度に全ての交換は難しいため、計画的に交換を行っている。卒業された多くの先輩方が大切に使用してこられた学校であるため、必要な修繕や交換を行いながら、今後も皆さんが安心して学ぶことができるよう、施設設備の維持管理に努めていく。

再質問

**問** 三島中学校の校舎、設備に修繕が必要な箇所はあるのか。

**答** 生涯学習課長 今年度、中学校の施設では玄関のポーチ、

階段の亀裂の修繕、設備では教室のコンセントの増設、暖房機24台中2台、1年教室と職員室の更新を行った。またガラスが割れた際

などは、その都度修繕を行っている。そのほか、小中学校体育館の照明のLED化やトイレの洋式化、小中学校教室への冷房設備の整備や、タブレットとWiFi環境の整備等、児童生徒の皆さんが安全安心で、快適に学校生活を送れるように計画的な修繕を今後も行っていく。

提言

校舎の壁が黒ずんでいたたり、ひびがみられる。校内は生徒みんで清掃活動に取り組み、とてもきれいなので、町外へアピールできるポイントになり、若い世代の移住者が増えるきっかけとなる。校舎の外観について再度検討を願う。



三島町のよさをPRするための取り組みについて



3番 熊谷 祐衣 議員

**問** 第5次三島町振興計画にあるように、観光客や移住者を増やすためには三島町のよさをPRすることが大切である。町としてのPRを行っているのか。

**答** 町長 観光については、観光協会と協力して情報発信に取り組む、観光協会ではフェイスブックやX、インスタグラムなどのSNSも活用してPRを行っている。また、生活工芸館や交流センター山びこ、道の駅などの各施設においてもホームページやSNSでPRし、加えてお客様へ直接PRできる様々なイベントに町の職員が参加して、観光PRを行っている。

移住を希望される方へのPRについては、移住に関する情報を見

ることができるホームページへの情報提供や、町ホームページでのPR、東京などの首都圏での移住相談会等へ参加している。また昨年度からは町へ直接来ていただく移住体験ツアーを企画し、参加者からは好評いただいております。移住につながるケースもみられた。

今日では、SNSの発信は欠かせないが、最後はお客様に直接来ていただき、三島町を感じていただくことが重要と考えている。今後もこの取組を進めるとともに、さらに多くの方々に三島町を知っていただく機会をたくさんつくることができるよう取り組んでいく。

再質問

**問** 福島県では、毎年、ふくしまふるさとCM大賞という町の魅力

を15秒で伝えるオリジナルCMを作成し、競うコンテストが行われている。これに応募すれば、最低10回はテレビで放映される。

CM大賞を受賞すれば120回テレビで放映され、三島町のよさを広め

ることができる。小中学生や役場、町民が協力して、CMを作成し、令和6年のふくしまふるさとCM大賞に応募する考えがあるのか伺う。

**答** 地域政策課長 三島町も過去に何回か出品させていただきました、

上位の賞も取ったこともあったがここ数年は応募していない。小学生の皆さんに協力していただければ、三島町をPRできる

少子高齢化や人口減少を緩やかにする取り組みについて



5番 二瓶 健 議員

**問** 少子高齢化や人口減少を緩やかにするためには、若い世代、子育て世代に移住してきてもらう必要があると思うが、町としてどのような取組をしているのか。

**答** 町長 三島町で行われている子育て支援の取組が移住者の

機会だと思う。応募に向け、協議し、来年度には応募できるような体制を進めていきたい。



方々へ案内できる取組であると考えている。三島町は様々な取組を行っており、具体的には保護者の負担を減らす取組として保育料、学校給食、バスの無料化、また保育所での3歳児未満の預かりや放課後児童クラブなどの取組を行い、子育ての負担をできるだけ軽くする取り組みをしている。

また、町では会津桐や会津地鶏などの特産品を製造する施設を造り、働く場所を作った。そして、自分で仕事を始めたいという方のためにも、お金を支援する仕組みを持っており、三島町で働くとい

うことを支援している。

住む場所については、若い方や子育て家庭の方々に住んでいただける住宅を建て提供している。また空き家を利用する方には、住宅を促すためのお金を支援する制度をつくり、若い方々の移住支援を行っている。

しかし、全国の町村で三島町と同じように移住の方々に向けた取組を実施しており、その中から三島町に興味を持っていただけよう三島町の魅力である伝統工芸、あるいは伝統文化などを併せてアピールしていきたいと考えている。

再質問

**問** 若い世代、子育て世代に移住してもらうためには、住む場所と働く場所が必要だと考える。

そこで、住む場所は200件以上ある空き家の活用をしたり、若者向けの町営住宅を増設したりすればよいのではないかと。

働く場所については、春になると大量の花粉で町民を悩ませ、冬に倒木の恐れがある杉の木を伐採、加工し、新たな産業にすればよいのではないかと。杉は加工しやすく、頑丈で防菌性が高いので、ログハ

ウス、すのこ、薪にして販売すれば良い。

また、耕作放棄地を活用して、三島ブランドの農作物をつくるのも良い。それに加えて、自給自足したい人には、田畑を貸し出せばよいのではないかと考える。

**答** 地域政策課長 利用できる空き家に関しては、ぜひ住む場所として移住者の方に住んでいただきたいと考えている。町では若い世代の人たちが移り住む場合は、

改革に対する補助事業を設けている。また単身者用住宅や若者の子育て世代住宅などの町営住宅があるが、今後、移住者が増える場合、空き家や町営住宅の充実を検討する。

**答** 特命担当課長 町内には幾つかの林業の会社があるが、既に町外から数名の方が会社に就職し、町内に定住している。

また福島県では、新しく林業に就職したい方を1年間、林業アカデミーを通して人材を育てており、この研修生の何名かは今年、三島町を訪問して研修を受けている。これからも三島町をPRしながら、林業の担い手の確保に努力していく。



8番 渡部 愛芽 議員

**答** 産業建設課課長 三島ブランドの新しい農作物については適地適作という言葉があるように難しいと思われる。三島町は寒暖の差も大きく雪も降る。寒暖差が大きくても育つソバは現在も栽培している。多くの人に三島町で収穫した作物をおいしく食べていただきたい。また、雪の下で育てたキャベツは甘くておいしいといわれており、そういったものを都会の方に知っていただいで、食べていただくこともブランドの一つだと考えている。

また遊休農地を活用した自給自足、田畑を貸し出すということについては、SNS、インターネットでの情報発信を行い、興味を持つていただける方の移住につなげるなど、様々な施策を考えて、遊休農地の解消につなげていきたい。

## 議会活動報告

### 福島県町村議会議長会「議員研修会」に参加しました

10月23日、郡山市の「ビッグパレットふくしま」において、福島県町村議会議長会主催の町村議会議員研修会が開催されました。

講演会では、「東京大学法学部教授 金井利之氏」から「議会改革・議会活性化のための議員活動」と題し、「自治体議員は自治体議会をどのように取り扱っていくべきか」を解説いただきました。

また、テレビやラジオなどの数多くの番組に出演されている、「ジャーナリスト 岩田公雄氏」から「これからの政局・政治の行方」と題し、国会を始めとする様々な政治事情について、講演をしていただきました。

この研修会を参考に今後の町政に活かせればと思います。



東京大学法学部教授 金井利之氏講演



ジャーナリスト 岩田公雄氏講演



## 議会の主な動き

### ▶ 2023年11月 ◀

- 2日(木) 奥会津五町村議会議長連絡協議会臨時会(金山町)  
 3日(金) 三島小まつり  
 6日(月) 東京電力処理水海洋放出の進捗状況報告のため来庁  
 10日(金) ふくしま駅伝「希望ふくしま」壮行会  
 13日(月) 全国過疎地域連盟総会(東京)  
 15日(水) 台湾雲林科技大学研修歓迎会  
 16日(木) 令和5年度事業定期監査(～17日)  
 19日(日) ふくしま駅伝(福島市)  
 20日(月) 桧原地区養豚場臭気対策説明会  
 24日(金) 議会全員協議会  
 28日(火) 両沼町村議会議長会中央要望(東京)  
 29日(水) 全国町村議会議長会総会・中央研修(東京)  
 議会運営委員会  
 三島町次世代の議会(小・中学生議会)  
 主要地方道会津若松三島町線大谷工区改良促進期成同盟会総会

### ▶ 2023年12月 ◀

- 2日(土) 三島保育所発表会  
 7日(木) 第4回議会定例会(～8日)  
 26日(火) 広域市町村圏整備組合議会臨時会

### ▶ 2024年1月 ◀

- 4日(木) 新年祝賀会  
 自治功労表彰式  
 6日(土) 三島町消防団出初式  
 11日(木) 会津総合開発協議会会津若松方部会講演会(会津若松市)  
 12日(金) 月例議会全員協議会  
 22日(月) 議会広報編集委員会  
 30日(火) 会津総合開発協議会講演会(会津若松市)  
 31日(水) 県立宮下病院後援会懇談会

## 議会に傍聴においでください

3月議会は**3月7日**に開会予定です。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、入場の際は、マスク着用、手指消毒にご協力願います。また、カゼ症状がある方は入場をご遠慮願います。

## 編集後記

新年おめでとうございます。町民の皆様方におかれましては穏やかな新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

町民の皆様には、日頃より、議会の取り組みや運営にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の位置付けが二類相当から五類感染症へ移行し、各地域で季節ごとのお祭りやイベントが再開され、多くの方々の活気と笑顔が三島町に戻ってまいりました。一方、社会経済情勢が混迷を極め、多方面に大きな影響を及ぼしております。

今年も議員一同、より豊かで活力ある町づくりを目指し、皆様のご期待に応えられるように心掛けてまいります。なお一層のご支援助とご協力をよろしくお願い申し上げます。

大竹 克昌

### 議会広報編集委員会

編集委員長 二瓶 俊浩  
 編集副委員長 矢澤 昇  
 編集委員 菅 五十嵐 健二  
 〃 大竹 克三 昌吉